

【代表的な研究テーマ】

□ SDGsからみた食の教材化と教育旅行の開発

□ 防災意識向上のためのオリジナル教材開発・研修

キーワード：SDGs、システム思考、ESD、教育旅行、防災意識

研究の概要

1. SDGsからみた食の教材化と教育旅行の開発

食と深く関わる一次産業の振興には、地域活性化を中心として、消費者保護や雇用機会の創出、再生エネルギー普及など様々な課題が相互に関係しあっています。それらの全体像を通して初めて、食や一次産業の価値が理解されます。

生産・流通・消費という食にまつわる一連の流れをたどりながら、持続可能な地域社会づくり(SDGs)につながる体験型の教材および教育旅行を共同開発します。



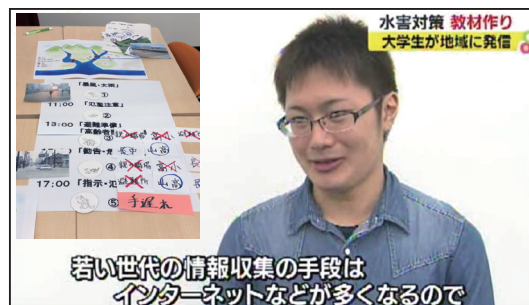
生産地と工場見学の総合コーディネート
(イメージ)

2. 防災意識向上のためのオリジナル教材開発・研修

自然災害に対する防災意識の向上は急務の課題です。

地域の実態に即したケーススタディーを積み上げることが重要ですが、それとともに、新たな視点からの防災を見つめなおし、「慣れ」や「飽き」からの脱却が求められています。

本研究では、静岡河川事務所、静岡地方気象台、静岡県庁等と連携し、地域の状況に応じた地元密着型の防災教育を行っています。特に、近年の異常気象に対して有効な、スマートフォンやPCを用いた最新の防災情報の収集トレーニングにも対応しています。



防災情報教材 (テレビず2017年12月11日放送)

・特筆すべき研究ポイント：

国連が定めた「持続可能な開発目標」(SDGs)の考え方を基礎とした研究教育活動に取り組んでいます。SDGsには、多方面にわたる様々な活動を「つなげる」「可視化する」といった点に特色があります。

各種の事業は、業界や組織全体を見通しながら展開されるべきですが、実際には縦割りの専門性の中で日々展開されています。ここに、「教育」という“色のついていない”中間的なアクターを介在させることで、双方の意思疎通のきっかけや、健全な広報の役割を持たせることができます。



SDGsピラミッド
(ジオパークで取り組まれている教育活動の例。
下から上にかけて展開することでSDGsを構成)

社会連携へ向けたアピールポイント

■ その他の社会連携活動

- ・日本ジオパークネットワーク運営会議 教育ワーキンググループリーダー
- ・伊豆半島ジオパーク 教育部会委員
- ・日本地理学会地理オリンピック実行委員

■ 相談に応じられる関連分野

- ・郷土学習
- ・防災教育
- ・SDGsに関する教育
- ・ドイツ語圏の各種動向調査



山本 隆太
地域創造教育センター
准教授

